

令和2年7月豪雨に係る取組み

目次

令和2年7月豪雨からの復興・再生に向けた支援(総括)・・・・・・・・	1
(球磨川流域大学構想に係る熊本県立大学における取組み)	
令和2年度被災地域復興・再生支援事業一覧・・・・・・・・	6
令和3年度被災地域復興・再生支援事業一覧・・・・・・・・	7

令和2年7月豪雨からの復興・再生に向けた支援

(球磨川流域大学構想に係る熊本県立大学における取組み)

■ 令和2年7月豪雨からの復旧・復興プラン(熊本県作成)

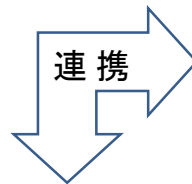
・球磨川流域大学の構想: 全国の新たな治水モデルとなる緑の流域治水をテーマとした、最先端の治水研究の推進等

■ 7月豪雨被災地域の復興・再生に向けた県立大学による支援

・熊本県が設置した大学として、“緑の流域治水”をテーマとした研究、並びに教員や学生による積極的な被災地支援

・一般県民に向けたオンラインによる球磨川流域圏の文化・歴史・環境・まちづくり等をテーマにした公開講座(無料)の実施

復興・再生に向けた支援イメージ



緑の流域治水研究の推進

- 「緑の流域治水研究室」の設置(R3. 4~)
- 新たに河川工学の研究者を招聘し、最先端の研究を推進

熊本県立大学バーチャルキャンパスの推進

- 球磨川流域圏の文化、歴史、環境等をテーマにしたバーチャルキャンパスの開講(R4. 4~)
- 球磨川流域に関する研究を行っている研究者等と連携
- 一般県民を対象として受講料は無料

被災地の
復興・再生

被災地の復興・再生を支援

(被災地復興・再生支援事業の実施(R2~R3))

- 各被災市町村の復興計画策定委員会に委員長等として参加
- 大学の英知を結集し、教員や学生等による支援を実施(中学生への学習支援など)
- 復興・再生の活動拠点としてサテライトオフィス(「クマラブ(人吉市)」)を開設

学生等ボランティアによる支援

連携・支援

熊本県

外部研究者等

緑の流域治水の研究について

1 趣旨

熊本県では、令和2年7月豪雨からの復旧・復興に向けて、「全国の新たな治水モデルとなる“緑の流域治水”をテーマとした、最先端の治水研究を推進」することとされている（別添資料参照）。

本学では、県から、緑の流域治水研究を推進されたいとの要請を受け、共通教育センターに新たに「緑の流域治水研究室」を設置し、河川工学の研究者を招聘して、最先端の緑の流域治水研究に取り組む。

2 研究室の設置

(1) 名称等

- ・ 名称 緑の流域治水研究室（共通教育センターに設置）
- ・ 場所 共通教育センター（グローバル棟1階）

(2) 研究者

- ・ 室長（特別教授） 島谷 幸宏 氏（前九州大学 工学研究院 教授）
- ・ 特別講師 岡村 麻矢 氏（現 株式会社建設技術研究所）

※特別講師は、6月採用

(3) 主な業務

- ・ “緑の流域治水”に関する研究
- ・ 球磨川流域圏の文化、歴史、環境等をテーマにしたバーチャルキャンパスの講座の一部を実施
- ・ 本学学生対象の教養科目を講義

(4) 開設時期等

- ・ 令和3年（2021年）4月から3年間

令和2年7月豪雨からの復旧・復興プラン

※復旧・復興プランについては、復旧・復興の進捗状況や
その時々地域の実情を踏まえ、適宜、プランの取組みの見直しを行います

1 被災状況・豪雨災害の検証

- ・線状降水帯の長期停滞により
7月3日～4日で約1月分(7月平均)の降水量
- ・昭和40年洪水や昭和57年洪水を上回る、
観測開始以来最大の雨量・水位を記録

↓
広範囲に降った大量の雨が球磨川や佐敷川などに流れ込み、大氾濫を引き起こすとともに、大雨により各地で土砂崩れも発生



① 主な被害状況

【人的被害】

死者数 **65**名 行方不明者数 **2**名

【住家被害】

全壊 **1,476**棟 半壊 **3,057**棟
床上浸水 **744**棟 床下浸水 **637**棟
孤立集落 **166**集落

【交通インフラ】

道路 **804**路線(2,183箇所)
橋梁流失 **16**箇所

【被害総額(11月24日時点)】

5,330 億円

建築物	1,668億円
公共土木施設	1,452億円
農林水産関係	1,019億円 など

昭和以降に発生した災害のうち、
熊本地震に次ぐ被害額

② 豪雨災害の検証

令和2年7月球磨川豪雨検証委員会による検証

構成：九州地方整備局、熊本県、流域12市町村
第1回(8/25)、第2回(10/6)

主要地点の水位・流量、「ダムによらない治水を検討する場」や「球磨川治水対策協議会」での治水対策(ソフト対策含む)の効果、川辺川ダムが存在した場合の効果、初動対応の状況等について検証

2 復旧・復興の基本理念・目指す姿

被災者・被災地の現状と課題

- ✓ 超高齢化、人口減少が加速する地域の、未曾有の災害からの早急な復旧と次なる災害への備え
- ✓ 消滅の危機にある地域における、人口流出の防止や地域経済・産業の再生
- ✓ 未来永劫、球磨川の清流と共に生き、暮らしていきたいとの思い

基本的な考え方(復興の哲学)

【復旧・復興の3原則】

- 原則① 被災された方々の痛みを最小化すること
- 原則② 単に元に戻すだけでなく、創造的な復興を目指すこと
- 原則③ 復旧・復興を熊本の更なる発展につなげること

【くまもと復旧・復興有識者会議からの提言(概要)(10/26)】

総論(まえがき)

球磨川流域の治水と振興について、全国的モデルを創出する程の覚悟を持ち、流域総合振興としての熊本独自の「グリーンニューディール」を提案

提言1 令和2年7月豪雨からの創造的復興の方向性

- ・福祉、医療、教育、交通、産業等の各分野を防災と結び付けた復興
- ・集落や住居をオンラインで結ぶ、スマートシティ化により、新しい時代のコミュニティ形成

提言2 球磨川流域の今後の治水対策の方向性

- ・科学的な根拠を住民に示しながら議論を進め、民意を形成していくことが重要
- ・ダムだけでなく、すべての減災手法から持続可能なベストミックスを求める「流域治水」が重要

提言3 将来に亘る安全・安心の確保に向けた創造的復興

- ・教育環境を守る観点からの交通インフラの強靱化やリダンダンシーの確保
- ・災害に対する予防力を高め、災害発生時の回復力を大きくする「縮災(Disaster Resilience)」という考え方を踏まえた防災対策が必要
- ・ローカル5G等のテクノロジーを推進し、先進的かつ強靱な通信コミュニティを構築

提言4 球磨川流域の恵みを生かした創造的復興

- ・球磨川流域の森林資源を生かした、「緑の産業・雇用の創出」
- ・人吉の米焼酎を全国のセンターブランドとしての展開や、グルメと食文化拠点を形成し、球磨川下りなどの観光と連携
- ・リモートオフィスの設置やベンチャー企業の誘致による、新たな仕事の創出
- ・新たな知の拠点となる「球磨川流域大学(仮称)」構想の推進

基本理念(グリーンニューディール)

◎ 生命・財産を守り安全・安心を確保する

◎ 球磨川流域の豊かな恵みを楽しむ

目指す姿

愛する地域で誰もが安全・安心に住み続けられ、
若者が“残り・集う”持続可能な地域の実現

～ 抜本的な治水対策とあらゆるインフラの強靱化を基盤とした、
最先端技術の導入によるスマートコミュニティの構築へ ～

対象地域

豪雨災害において、特に甚大な被害を受けた、球磨川流域市町村※と津奈木町を基本とする。

(※)八代市、人吉市、芦北町、錦町、あさぎり町、多良木町、湯前町、水上村、相良村、五木村、山江村、球磨村

対象期間

復旧・復興に向けては、短期的に実施する取組みから、中長期的な視点で取組みを進めるものもあり、プランの期間は定めず、主な取組みについて、ロードマップ等を作成しながら、進捗状況を管理していく。

(ロードマップ等は今後作成)

3 新たな治水の方向性を踏まえた治水・防災対策 及び 被災者・被災地域の1日も早い復旧・復興に向けた取組み

流域全体の総合力による“緑の流域治水” ～生命・財産を守る安全・安心の最大化と環境への影響の最小化のベストミックス～

新たな治水の方向性を踏まえた、抜本的な対策

- 「**緑の流域治水**」の1つとして、住民の「命」と地域の宝の「清流」をともに守る「**新たな流水型のダム**」の推進

速やかな再度災害防止のための緊急治水対策

- ・ 河道掘削、堤防整備などの河川改修の計画的実施
- ・ 堆積した土砂・流木の早期撤去
- ・ 球磨川支川や佐敷川等の災害復旧や改良復旧
- ・ 山地災害の早期復旧と砂防・治山施設の整備
- ・ 市房ダムの事前放流などのフル活用に向けた農業者等との連携による再開発
- ・ 地域と連携した水田貯留機能のフル活用による「田んぼダム」の推進
- ・ 奥山への広葉樹の導入など多様で健全な災害に強い森づくり など

※遊水地等の「緑の流域治水」の具体的な対策は、球磨川流域治水協議会の議論を経て、R2年度内に球磨川流域治水プロジェクトとして公表。

“生命・財産を守る” 地域防災力の強化

○ 災害時の命綱となる伝達機能の強靱化

- ・ 戸別受信機の設置、警報サイレン・警告灯の増設等、あらゆる手段による避難の発信力強化
- ・ 通信回線の多重化による災害に強い情報通信網の構築
- ・ 河川監視カメラや危機管理型水位計の増設
- ・ ライブカメラやSNS等を活用したスマート防災の実現

○ 確実な避難による「逃げ遅れゼロ」

- ・ 最大規模の洪水(L2)に対応したハザードマップ作成と流域住民参加型訓練の実施
- ・ 全ての流域市町村における実効性のあるタイムラインの策定
- ・ 命を守る「マイタイムライン」の普及と率先避難者(ファーストペンギン)の育成
- ・ 地区防災計画の作成や地域のリアルハザードマップ化(街頭への浸水深や避難所などの標識設置)
- ・ 広域避難や予防的避難の実施、安全で身近な避難場所・避難路やヘリポート等の確保
- ・ 地域の防災情報やダムなどの治水に関する正確な知識の共有

○ 災害弱者への支援の徹底・災害時の財産被害への備え

- ・ 高齢者や障がい者など配慮が必要な全ての世帯での要支援者個別計画の作成・検証
- ・ 要配慮利用施設での早期の避難確保計画の100%作成及び訓練実施
- ・ ローカル5Gなどの通信技術を活用した避難支援システムの構築
- ・ 浸水想定エリアの住民への家屋や農作物等に対する保険等への加入促進

I すまい・コミュニティの創造

～安全・安心な住まいの確保と子どもも高齢者も暮らしやすいまちづくり～

- ・ かさ上げ等による宅地再生と高台等の安全な場所への移転促進 ・ 景観に配慮した中層等災害公営住宅の整備
- ・ 垂直エレベータの整備など、介護施設等における防災・減災対策の推進
- ・ 応急仮設住宅等の提供による住まいの確保 ・ 災害廃棄物の早期適正処理
- ・ リバースモーゲージ利子助成等を活用した県独自の住まいの再建支援
- ・ 「地域支え合いセンター」による被災者の生活再建に向けた総合的な支援
- ・ 介護予防等を図るリハビリテーション活動の支援
- ・ みんなの家を活用した地域コミュニティの確保 ・ 住民の意向に沿ったコミュニティ再生の支援
- ・ こころのケアセンターによる巡回・相談などを通じた被災者のこころのケア
- ・ 球磨村や八代市坂本町等の医療・福祉・教育・金融・行政などの生活サービス基盤の早期再建

II なりわい(生業)・産業の再生と創出

～1日も早い事業再開と地域の資源を生かした新たな“仕事の創出”～

- ・ なりわい再建支援補助金等による事業再建 ・ 雇用の維持・確保及び離職者等の就労支援
- ・ 被災企業の事業継続支援と新たな投資の誘発 ・ 八代港の物流拠点強化と新規コンテナ航路の開設
- ・ 地域の活性化や課題解決を図るコミュニティビジネス等の支援
- ・ 被災した農業者への営農再開等の支援 ・ 農地・農業用施設や林業・治山施設等の早期復旧
- ・ 仮設商店街の開設支援や商店街等の機能回復支援 ・ 海域・海岸に漂流・漂着した流木等の処理

III 災害に強い社会インフラ整備と安心して学べる拠点づくり

～いかなる災害が起きても、生命・財産・教育環境を守り抜くインフラの強靱化～

- ・ 国道219号をはじめとする県南地域道路の全面通行止めの解消
- ・ JR肥薩線、くま川鉄道、肥薩おれんじ鉄道の早期復旧
- ・ 道路・橋梁・電気・通信・水道などライフラインの早期復旧
- ・ 被災した警察施設・公民館等の早期復旧
- ・ 消防団詰所等の再建・災害車両・装備等の充実
- ・ 代替バスの運行等による通学手段の確保、学校の再開・学習機会の確保
- ・ スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等による被災した児童生徒等への心のケア
- ・ 被災した児童・生徒等に対する支援、放課後児童クラブ利用者の支援

IV 地域の魅力の向上と誇りの回復

～球磨川の宝を次代につなぎ、地域の恵みと誇りを生かす～

- ・ 歴史五百年の人吉温泉の復活 ・ 球磨川くだり・ラフティングの再開
- ・ 大鍾乳洞球泉洞、道の駅「さかもと」の再開
- ・ 国宝青井阿蘇神社、相良三十三観音など被災した文化財の復旧
- ・ 被災した地域・集落における地域コミュニティの場として長年利用されている施設等の再建
- ・ 被災したエリアへの観光需要喚起策の実施 ・ 若者の地元定着、ふるさと回帰の促進

復旧・復興に向けて、直ちに実施する喫緊の取組み(令和2年補正予算等で迅速に対応)

4 持続可能な地域の実現に向けた将来ビジョン(目指すべき取組みの方向性)

I すまい・コミュニティの創造

～ 安全・安心な住まいの確保と子どもも高齢者も暮らしやすいまちづくり ～

- 誰もが暮らしやすい・魅力あふれるまちづくりと新たなコミュニティの形成
 - ・ 医療・福祉・教育・行政機能などを集約した地域拠点整備
 - ・ 生涯現役社会の実現に向けた健康づくりや生きがい就労の推進
 - ・ 医療、歯科、介護・リハビリ等、持続可能な医療及び地域包括ケアシステムの構築
 - ・ 地域拠点と各集落間の巡回バス・デマンドタクシーの運行やドローン等を活用した買い物支援
 - ・ 人吉市街地をはじめとした道路改良(国道445号等)と一体的な街並み空間の再構築

- 最先端技術(AI、ICT等)を駆使した新たな“つながり”による、“スマート・ビレッジ”の実現
 - ・ ICTによる子どもや高齢者の見守り等の支援
 - ・ 集落や世帯をオンラインでつなぎ、災害時の避難支援や防災・生活情報を共有
 - ・ 地域にしながら専門の医師の診療が受けられるオンライン診療
 - ・ 服薬指導や薬の配送サービスなどによるオンライン調剤
 - ・ 介護ロボットや子育てAI、ICT機器の優先導入

II なりわい(生業)・産業の再生と創出

～ 一日も早い事業再開と地域の資源を生かした新たな“仕事の創出” ～

- ダイナミックなインセンティブによる企業支援と産業・雇用の創造
 - ・ 遊休施設や空き家を有効活用した、サテライトオフィスの設置やベンチャー企業の誘致
 - ・ ワークेशन・リモートワーク等、新たな仕事の創出や移住定住の促進
 - ・ 立地促進補助金などによる製造業等の誘致や新たな投資の誘発
 - ・ 県南フードバレー構想の推進による食品関連産業の集積
 - ・ 焼酎など醸造食品産業の復活を支える研究開発
- 球磨焼酎の“トップ・オブ・ザ・ワールド戦略”
 - ・ 「焼酎」を生かした研究開発・人材育成の拠点づくり
 - ・ 文化・伝統を体感できる施設等による誘客促進
 - ・ 世界レベルのコンペティションで最高位受賞の実現

- 再生可能エネルギーの導入推進によるゼロカーボン先進地の創出
 - ・ 木質バイオマス発電や小水力発電、風力発電の導入推進
 - ・ ZEHや太陽光発電初期投資ゼロモデル住宅など個人住宅への再生可能エネルギーの導入推進
 - ・ 温泉の排湯活用と組み合わせた焼酎発電など新たな再生可能エネルギーの研究

- “緑の雇用”の創出に向けた森林資源のフル活用
 - ・ 森林管理の適正化による木材の増産や早生樹の導入による林業の生産サイクルの短縮、「スマート林業」の推進
 - ・ 確実な手入れにつながる林道路網の整備
 - ・ 製材工場等の新設・拡充と住まいや街並み再建への地域材活用
 - ・ 八代港を活用した木材輸出の拡大
 - ・ 新たな森林サービス産業の展開
- 農地の大区画化による生産性の向上など稼げる農業の実現
 - ・ 崩落土等の活用による大区画化の実現と「スマート農業」の推進
 - ・ くまもとグリーン農業推進
 - ・ 新規作物導入や産地拡大による新たな担い手の確保・育成
 - ・ 地域農産物等の販路拡大
- 球磨川と干潟再生のシンボル「アユ」・「アサリ」による地域活力の再生
 - ・ アユ種苗の放流体制の再構築
 - ・ 干潟の生態系保全に向けたアサリ資源の回復
 - ・ 干潟漁場の覆砂による底質環境の改善

III 災害に強い社会インフラ整備と安心して学べる拠点づくり

～ いかなる災害が起きても、生命・財産・教育環境を守り抜くインフラの強靱化 ～

- 日本一災害に強い、命の道・通学の道としての「国道219号」の強靱化
 - ・ 国道219号と対岸道路のかさ上げ
 - ・ 「縮災」という考え方を踏まえた、強靱で信頼性のある道路の整備
 - ・ 自然と歴史に調和した橋梁の再生
- 二度と「陸の孤島化」しない、道路・通信網のリダンダンシー確保
 - ・ 県道人吉水俣線、県道宮原五木線、県道中津道八代線等の改良
 - ・ 集落に複数の道路や橋梁をつなぎ、すべての集落のダブルネットワークを整備
 - ・ 多重化による災害に強い情報通信網の構築

- 災害に強い地域拠点・避難所としての「防災公民館」や「防災道の駅」の整備
 - ・ 公民館や集会所へ太陽光発電と蓄電池設備の導入推進
 - ・ 球磨川流域の道の駅を、災害時の救援・復旧活動拠点として無停電施設の整備、耐震化、通信基盤の強化を実施

- 全国から若者が集う地方創生の核となる魅力ある学校づくり
 - ・ 東大等国内外の大学や高校とつながる授業の展開、企業等と連携した最先端のICT人材の育成、ローカル5G等の最先端技術の活用、e-スポーツなどによる「ICT教育日本一の実現」
 - ・ 地域資源とコラボした学科・コースの創設(水・緑等の“グリーンニューディール”関連、防災、焼酎・発酵、伝統建築など)
 - ・ ホテル、旅館や空き家等を活用した居住空間の整備など、受入環境の整備
 - ・ 「Kumaラボ」への参画、ゼロカーボンに資するエコ・スクールの取組み

IV 地域の魅力の向上と誇りの回復

～ 球磨川の宝を次代につなぎ、地域の恵みと誇りを生かす ～

- 復興のシンボルとしての清流川辺川・球磨川の継承
 - ・ 沢遊び・水辺遊びができる川づくり
 - ・ 球磨川と調和する景観と歴史的街並みの整備
 - ・ 浄化槽整備特区(仮称)の創設による単独処理浄化槽等の解消
- くまモンやクラウドファンディングを活用した球磨川ファンクラブの設立
 - ・ くまモンと人吉球磨(くま)のコラボによる新たな魅力づくり
 - ・ 球磨川流域の清掃活動、植樹等の実施や情報発信
- 新型コロナ収束後の新たなインバウンド戦略の実行
 - ・ クルーズ船とくまモンポート八代を生かした県南観光の拠点化
 - ・ 薩摩街道の歴史をしのばせる佐敷の街並みとうたせ船の次代への継承
 - ・ 鹿児島・宮崎と連携し、焼酎等をフックとした誘客促進

- 観光資源の磨き上げや交通アクセスの多様化による人吉球磨の観光拠点化
 - ・ 日本遺産ツアーの展開や人吉球磨ゆかりのアニメツーリズムによる観光戦略の展開
 - ・ 九州周遊クルーズトレインの運行
 - ・ 自然体験と防災等を組み合わせた教育旅行の誘致
 - ・ 鉄道、リムジンバス、ヘリ等による阿蘇くまもと空港やJR熊本駅などのアクセス強化
 - ・ コンパクトな街並みと二次交通・観光体験をITで組み合わせるスマートツーリズムの推進
- 四季折々の自然を体感できる、ドライブ・サイクリング・ランニングロードの整備
 - ・ 桜・紅葉ロードの整備や、ナショナルサイクリングロードの整備によるツール・ド・九州・山口の誘致
 - ・ 水上スカイヴィレッジの高山トレーニングの聖地化と球磨川ウルトラマラソンの開催
 - ・ 歴史・文化・自然を体感できる自然歩道ルートの整備や新たな観光資源(球磨川ライトアップやロープウェイ等)の発掘
 - ・ 球磨川を生かした新たなアクティビティの導入や、温泉と食を組み合わせたウェルネスツーリズムの推進
- 若者が残り、集まる知的拠点としての“球磨川流域大学(仮称)”の構想
 - ・ 全国の新たな治水モデルとなる“緑の流域治水”をテーマとした、最先端の治水研究の推進
 - ・ 熊本県立大学をはじめとする国内外の大学や企業・研究機関等と連携した、“球磨川”“温泉”“焼酎”“マンガ”など、地域の課題や可能性にフォーカスしたラボの集合体「kumaラボ」の設置による知の拠点化
 - ・ 知事の人脈を生かした世界中の大学や有識者との双方向ディスカッション、バーチャルフィールドワーク

5 復旧・復興プランの実現に向けて

(1) 被災市町村への支援及び市町村相互の連携促進

- ・ 台帳作成による、集落毎にライフラインや道路の復旧状況等の確認
- ・ 市町村への継続的な人的・財政支援及び復興計画の策定支援
- ・ 市町村・県が連携し、定住自立圏等の仕組みを活用して、「チーム球磨川プロジェクト」を発足し、被災地域の復興を強力に支援

(2) プラン実現に向けた実効性の確保

- ・ 「球磨川流域版スーパーシティ構想(国家戦略特区)」の検討・実現による、復旧・復興プランの取組みのダイナミックな展開
- ・ DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進による、あらゆる取組みの加速化
- ・ 被災者の負担と地方の財政負担の最小化に向けた、国への積極的な働きかけ
- ・ 「球磨川流域復興基金」の設置による、被災地域のきめ細かなニーズへの対応
- ・ 市房ダムの電気事業等からの収益を地域へ還元
- ・ ふるさとくまもと応援寄附金の積極的な募集

(3) 復旧・復興の進捗状況を踏まえたプランの見直しとアーカイブ化

- ・ 復旧・復興の進捗状況やその時々地域の実情を踏まえ、適宜、プランの取組みの見直しを行い、被災者のニーズを的確に捉えた取組みを推進
- ・ 市町村や大学等と連携して“新たな治水対策”“復興モデル”の発信と、後世への伝承(アーカイブ化等)

◆ 五木村の振興について

- ・ 「五木村振興推進条例」に基づき、五木村の振興を県政の重要課題として、これまで以上に強力に推進。
- ・ 貯留型ダムから流水型ダムへの変更に伴う新たな活性化のための計画を策定。
- ・ その実効性を確保するため、「熊本県五木村振興基金」を10億円上乗せし、県・五木村が連携し、清流川辺川を守りながら、将来も安心して五木村に住み続けることができる村づくりを目指す。
- ・ 同様に、相良村上四浦地区の地域活性化に向けた取組みを支援。

中長期的な視点で取組みを推進

愛する地域で誰もが安全・安心に住み続けられ、 若者が“残り・集う”持続可能な地域の実現

“緑の雇用”の創出に向けた
森林資源のフル活用

再生可能エネルギーの導入推進による
ゼロカーボン先進地の創出

ダイナミックなインセンティブによる
企業支援と**産業・雇用の創出**

なりわい(生業)・ 産業の再生と創出

球磨焼酎の“トップ・オブ・ザ・ワールド戦略”

ワールド九州の誘致も

四季折々の**自然を体感**できる、
ドライブ・サイクリング・ランニングロードの整備

球磨川と干潟再生のシンボル
「アユ」・「アサリ」による
地域活力の再生

すまい・コミュニティ の創造

最先端技術 (AI, ICT等) を駆使した
新たな“**つながり**”による、“**スマート・ビレッジ**”の実現

ICTで生活
防災情報が
迅速にわかる

オンライン診療・
調剤もできる

緑の流域治水

生命・財産を守る安全・安心の最大化と
環境への影響の最小化のベストミックス

農地の大区画化等による生産性の向上など
稼げる農業の実現

持続可能な医療、
地域包括ケアシステム
で安心

復興のシンボルとしての
清流川辺川・球磨川の継承

くまモンやクラウドファンディングを活用した
球磨川ファンクラブの設立

観光資源の磨き上げや交通アクセスの
多様化による人吉球磨の**観光拠点化**

観光資源の磨き上げや交通アクセスの
多様化による人吉球磨の**観光拠点化**

地域**の魅力の
向上と誇りの回復**

誰もが暮らしやすい・魅力あふれる
まちづくりと新たな**コミュニティ**の形成

二度と「陸の孤島化」しない、
道路・通信網の**リダンダンシー確保**

災害に強い
**社会インフラ整備と
安心して学べる拠点づくり**

災害に強い 社会インフラ整備と 安心して学べる拠点づくり

日本一災害に強い、**命の道・通学の道**
としての「国道219号」の**強靱化**

災害に強い地域拠点・避難所としての
「**防災公民館**」や「**防災道の駅**」の整備

全国から若者が集う地方創生の核となる
魅力ある学校づくり

若者が残り、集まる知的拠点としての
“**球磨川流域大学** (仮称)” の構想

ICT教育日本一

kumaラボで
地域の課題や
可能性を研究

5G

～**球磨川流域グリーンニューディール**～

令和2年度「被災地域復興・再生支援事業」一覧

NO	学部	研究・活動等名	研究・活動等の計画	R2事業費 (単位:円)	実施期間 (予定)
1	総管	人吉球磨地域におけるフィールドワーク(3ゼミ合同基礎総合管理学演習)	<ul style="list-style-type: none"> 人吉球磨地域を対象(人吉市学芸員、青井阿蘇神社、球磨川下り、くま川鉄道、焼酎蔵、球泉洞)に取材活動を行い、学生の各グループ(5~6人/グループ)ごとに被災地の「今」を伝える動画等を作成 12月に学習成果発表会を開催し、被災地の「今」を学外へ情報発信 対象地域:人吉市、球磨村 	725,714	R2.11~R2.12
2	総管	人吉球磨地域の活動拠点整備(サテライトオフィス設置)	<ul style="list-style-type: none"> 人吉市まち・ひと・しごと総合交流館「くまりば」にシェアオフィスの固定席1席を賃借し、県南における全学共用シェアオフィス「球磨ラブラトリー」(略称「クマラブ」)を開設。 令和2年7月豪雨で被災した地域に寄り添った復興・再生を支援するとともに、地域で活躍する人材の育成や地域課題の解決に全学挙げて取り組む。 教員が随時必要に応じてオフィスに勤務し、施設を活用してゼミなど学生の教育活動を実施するとともに、本学教職員及び学生の県南での研究活動、教育活動の拠点として活用する。 対象地域:人吉市、球磨郡、葦北郡等 	430,000	R2.11~R4.3
3	総管	被災地の課題・ニーズ調査	<ul style="list-style-type: none"> ゼミ活動の一環としてフィールドワークによる被災地の課題・ニーズ調査を実施するとともに、自治体や観光協会等と連携し、被災地域の住民との交流活動やイベント等の支援を実施した。 対象地域:人吉市、球磨村、八代市坂本町、芦北町等 	450,000	R2.11~R4.3
4	総管	KUMAJEKT(クマジェクト)2020復興・再生期の地域づくりに関する研究	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度には、22名の学生が参加し、あさぎり町・五木村・球磨村・相良村・人吉市の5つの市町村をフィールドに、学生および教員が地域づくりや復興活動に参画した。そのなかで、地域課題を抽出し、現地の住民団体や市町村に対して政策提案を行った。 ◎五木村: SNSを活用した情報発信 ◎球磨村: 見守り機能を強化した買い物支援活動の展開 動画を活用した情報発信 ◎あさぎり町: 山村留学、さくら庵の利用方法 ◎人吉市: オンラインによるウンスンカルタの実施方法 ◎相良村: 住民参加型の情報発信、地域資源の開発 対象地域: 人吉市、五木村、球磨村、あさぎり町、相良村 	670,000	R2.11~R4.2
5	環境	熊本地震と令和2年7月豪雨被災者連携支援一住民視点での仮設住宅環境改善とデータベースの作成	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度は球磨村、山江村を中心に仮設住宅そのものの環境改善を目指して、ものづくりで家具(ベンチやイス、ごみステーション)を提供する直接的な支援を行った。 熊本地震被災経験者と豪雨被災者をつなげ災害時の生活再建の知恵を共有するために、仮設住宅とは何か、暮らしのアイデアをまとめた情報提供サイト兼データベース「仮設住宅360」を作り上げた。この活動を通じて、両被災地の住民をつなぎ、形にできない暮らしのアイデア、仮設団地自治のあり方を伝えた。 対象地域: 球磨村、山江村 	498,448	R2.11~R4.2
6	環境	球磨川流域の山間集落の復興まちづくりの支援	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度は八代市坂本町、芦北町、球磨村の山間集落を網羅的に被災状況、現在の住民の状況、今後の意向、災害前の課題などについて、現地調査及び区長や住民へのヒアリング調査により状況把握を行った。 対象地域: 八代市坂本町、芦北町、球磨村の山間集落(約200集落) 	422,496	R2.12~R4.2
7	環境	菊芋中のイヌリン含有量簡易測定法の検討ならびに生産者・小規模事業者支援	<ul style="list-style-type: none"> 被災地の生産者等が自作の菊芋を原料とした加工食品に機能性表示ができるようにするために、令和2年度は菊芋中に含まれる「イヌリン」の経済的負担が軽い、安価な分析方法を求めて、既存の測定方法を整理した。その結果、安価な方法は見いだせなかったが、イヌリン含有量を量る最適な測定法を確定できた。そして機能性表示の根拠になる数値を確保できることが判明した。 対象(栽培)地域: 人吉市 	598,000	R2.11~R4.2
8	環境	球磨川流域におけるケミカルリスクマップ	<ul style="list-style-type: none"> 地域の土壌・堆積物を採取し、その抽出された化学物質を用いてメダカやヒトの細胞を用いた毒性試験を実施する。これにより、化学物質による生態系やヒトへのリスクを判断する。令和2年度は、12月に人吉市と芦北町の現地調査を行い、現地の状況を確認することができた。土壌・堆積物を採取し、その抽出された化学物質の分析を進めている。 対象地域: 人吉市、芦北町 	500,000	R2.12~R4.2
9	環境	被災した山間地域の復興を目指した熊本県産の干しいたけの高付加価値化ならびに消費と販売の拡大に向けた方策	<ul style="list-style-type: none"> 消費が低迷する干しいたけの市場での評価を高め、被災した生産地域の産業の活性化につなげるために、令和2年度はGABAの成分分析および抽出条件の検討を行い、その分析方法を確立した。そして干しいたけのGABA含量は、粒径および抽出条件(浸漬温度、浸漬時間)の違いによって、抽出濃度が異なることを明らかにした。 対象(栽培)地域: 五木村、相良村、球磨村、人吉市、多良木町の山間地域 	500,000	R2.12~R4.2
10	環境	芦北・水俣地域のサラダタマネギに着目した復興支援	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年7月豪雨で被害を受けた芦北地域で栽培されているサラダタマネギの特性を活かした加熱加工食品を開発するために、令和2年度は、開発の前提となる生のサラダタマネギのおいしさに関する成分や味覚センサーによる味などを分析・評価した。また、サラダタマネギのレシピ開発に関する研究・基本調査を行った。 対象地域: 水俣市、芦北町 	499,684	R2.12~R4.2
11	環境	環境資源学分野の球磨村復興支援事業	<ul style="list-style-type: none"> 木質系の災害廃棄物や森林資源をバイオマス資源として活用するための持続可能なエネルギー供給施設の提案のために、令和2年度は球磨郡球磨村の災害廃棄物の発生状況や球磨郡球磨村内の森林資源やその他のバイオマスの賦存量・利用可能量および球磨郡球磨村内のエネルギーの供給状況について調査した。 対象地域: 球磨村 	632,600	R2.12~R4.2
12	文	被災地域の学習支援	<ul style="list-style-type: none"> 本の読み聞かせや交流イベント等を通じた学生との交流による被災地域の小学生への教育面、精神面での支援を行うために、令和2年度は球磨村役場等との調整と現地の視察を行い、令和3年度の事業の準備を行った。新型コロナウイルスの感染防止の観点からオンライン活用、対面の両面を検討した。 対象地域: 球磨村 	160,000	R2.12~R4.2
13	文	被災地域での小・中学生への英語学習支援プログラム	<ul style="list-style-type: none"> 被災地の小・中学生を対象の英語学習支援や学生等との英語を使った定期的な交流活動を通じた児童・生徒への学習支援と精神的支援を進めるために、令和2年度は球磨村の現地視察および球磨村役場での打ち合わせを行った。 対象地域: 球磨村 	192,544	R2.12~R4.2
合計				6,279,486	

令和3年度「被災地域復興・再生支援事業」一覧

NO	学部	研究・活動等名	研究・活動等の計画	R3事業費 (単位:円)	実施期間 (予定)
1	総管	芦北地域復興支援事業(電動キックボードを活用した観光振興)	・学生と被災地(芦北町)が連携して、公道を走行可能な電動キックボードを活用した復興ツアーを企画し、実証実験を行う。 ・対象地域:芦北町	165,000	R3.4~R4.2
2	総管	人吉球磨地域復興支援事業(くまりばにおける研究・教育活動)	・くまりばを拠点として週1回程度リモートワークを行い、情報収集及び情報発信を行う。 ・人吉球磨地域の自治体、民間企業、NPO等と連携し、防災や観光など被災地のニーズに応じた研究・教育・社会貢献活動を行う(フィールドワークも実施予定)。 ・くまりば進出企業(IT系)と連携して、プログラミング教育やITによる地域の課題解決に取り組む。 ・対象地域:人吉市	881,000	R3.4~R4.2
3	総管	人吉球磨地域におけるワーケーションの研究	・人吉球磨地域の新たな魅力創出のため、企業やNPO法人等と連携し健康や食をテーマにしたワーケーションについて研究を行う。 ・NPO等とワークショップによる健康プログラムの検討 ・地元の食材を活用したメニューの開発(食育研究室との連携) ・モニターによるプログラムの実証 ・学生食堂でのメニューの提供(モニターとして) ・対象地域:人吉市、球磨郡	694,000	R3.4~R4.2
4	総管	KUMAJECT(クマジェクト)2021復興・再生期の地域づくりに関する研究	・令和2年度から継続してあさぎり町・五木村・球磨村・相良村・人吉市の5つの市町村をフィールドに、学生および教員が地域づくりや復興活動に参画する。 ・令和2年度での研究(教育)活動および提案内容の継続的な取組み(展開)はもちろんのこと、新たな課題抽出および政策提案を行う。 活動スケジュールの概要は以下のとおり。 4月 学生募集・選考、5月 キックオフ、各プロジェクトのスタート(12月まで)、10月 中間振り返りワークショップ、11月 プレゼンテーション研修、12月 学内報告会、1月 最終報告会(現地報告会)、2月 報告書の作成 ・対象地域:人吉市、五木村、球磨村、あさぎり町、相良村	935,000	R3.4~R4.2
5	環境	仮設住宅居住者を対象とした環境改善と居場所づくりを通じた集落復興	・令和2年から継続する仮設住宅そのものの環境改善支援、熊本地震被災経験者と豪雨被災者をつなげ災害時の生活再建の知恵を共有する活動に加え、仮設住宅居住者が、従前居住地に戻り、地域住民同士の交流を取り戻すため“居場所”の提案と整備を学生・地域住民が合同で実施する。 ・仮設居住者が、従前居住地に戻るための支援活動は、球磨村神瀬地区を対象に、被災した住宅を地域の集会所として改修する。対象建物は、床上浸水した築100年を超える古民家で、土壁の塗り直し、床貼り、建具作成を行い、使い方を住民と検討するワークショップを実施する予定。 ・対象地域:山江村、球磨村	936,000	R3.4~R4.2
6	環境	球磨川流域の山間集落の復興まちづくりの支援	・令和2年度に実施した、八代市坂本町、芦北町、球磨村の山間集落の網羅的な状況把握を踏まえ、いくつかの具体的な地区を対象として(2~3集落程度)、各集落のニーズに応じて住民同士の交流のためのイベントの企画や実施、意見交換をサポートしながら継続的に復興まちづくりを支援する。 ・対象地域:八代市坂本町、芦北町、球磨村	845,000	R3.4~R4.2
7	環境	菊芋中のイヌリン含有量測定法の検討ならびに生産者・小規模事業者支援	・令和3年度は令和2年度の成果を踏まえて、被災地の生産者等から集めた試料を用いてイヌリン含有量を実際に測定し、分析データを被災地の生産者等に提供し、「売れる」農業づくりを支援する。 ・令和2年度に継続して安価に精密分析を行えるイヌリン含有量の分析方法を模索する。 ・対象(栽培)地域:人吉市	745,000	R3.4~R4.2
8	環境	球磨川流域におけるケミカルリスクマップ	・令和3年度は、令和2年度の分析結果をまとめるとともに、球磨郡水上村、湯前町、多良木町、あさぎり町、錦町、球磨村、八代市を対象地域を広げて調査を実施する。 ・球磨川流域に水害時にあふれたプラスチックごみから発生するマイクロプラスチックの汚染状況も調査する。 ・人吉市と芦北町で復興に伴い経時的どのようにリスクが低減したかを明らかにする。 ・対象地域:人吉市、芦北町、水上村、湯前町、多良木町、あさぎり町、錦町、球磨村、八代市	475,000	R3.4~R4.2
9	環境	被災地域の山間部の復興を目指した熊本県産の干しいたけの機能性表示に向けた成分分析ならびに消費と販売の拡大に向けた方策	・令和3年度は、粒径および抽出条件(浸漬温度、浸漬時間)の違いに加えてpHや塩の影響を明らかにする。これに加えて熊本県産干しいたけの特性を把握するために、産地や種類など試料数を増やし、引き続き、GABAの成分分析および抽出条件の最適化を行うことで、他の産地との差別化を目指す。 ・対象(栽培)地域:五木村、相良村、球磨村、人吉市、多良木町の山間地域	655,000	R3.4~R4.2
10	環境	芦北・水俣地域のサラダタマネギに着目した復興支援	・令和3年度では、加熱加工食品の試作を含めた商品開発を目指した研究を行う。また、サラダタマネギの加熱等による成分やおいしさの変化についてもHPLCや味認知装置で評価する。 ・対象地域:水俣市、芦北町	753,000	R3.4~R4.2
11	環境	環境資源学分野の球磨村復興支援事業	・球磨郡球磨村の災害廃棄物の発生状況や球磨郡球磨村内の森林資源やその他のバイオマスの賦存量・利用可能量および球磨郡球磨村内のエネルギーの供給状況についての令和2年度の調査結果を踏まえて、木質系の災害廃棄物や森林資源をバイオマス資源として利活用するための持続可能なエネルギー供給施設の提案を行い、再生可能エネルギー固定価格買取制度(FIT)申請を行う。 ・対象地域:球磨村	935,000	R3.4~R4.2
12	文	被災地域の学習支援	・災害からの復興と、教育面、精神面での支援を進め、児童の情操の安定化に資するために、令和3年度は、令和2年度を踏まえて、学生とともに年3回程度現地に赴き、百人一首や俳句等など日文科の特性を生かした遊びに、感染防止の工夫を凝らした活動などを行う。また、進路相談などを念頭に、オンライン上で子どもたちと繋がる方法も模索する。 ・対象地域:球磨村	395,000	R3.4~R4.2
13	文	被災地域での小・中学生への英語学習支援プログラム	・被災地の児童・生徒の英語学習の遅れの対応や被災により傷ついた児童・生徒の精神面での支援を行うために、球磨村での小・中学生を対象にした英語学習支援や英語を使った交流活動のプログラムを月1回程度行う。状況に応じてオンラインでの活動も実施する。 ・対象地域:球磨村	755,000	R3.4~R4.2
14	総管	球磨村村民アンケート調査および村づくり懇談会のデータ分析	・球磨村での村民アンケート調査(第1回・第2回)における自由記述と、村づくり懇談会(第1回・第2回)での住民の意見をデータとし、学生とともに計量テキスト分析と質的記述的分析を行う。第1回と第2回との比較、地域ごとの分析をし、時間の経過による村民ニーズの変化や地域ごとのニーズの特徴を明らかにする。 ・対象地域:球磨村	346,000	R3.4~R3.9
※ その他、当該事業経費として、人吉市まち・ひと・しごと交流館「くまりば」シェアオフィス等使用料				485,000	
合計				10,000,000	